



モニタを活用して作業効率UP!

家庭用の薄型テレビは大型化が進み、50インチを超えるものまでお店にならんでいます。パソコン用モニタも液晶のワイド型(縦横比9:16)が主流になりました。モニタの売上ランキングを見ても、トップ10すべてをワイド型が占めることが普通です。現在は、20~22インチワイドが売れ筋で、値段もかなりお手ごろになってきました。メーカーにこだわらなければ、20インチワイドを2万円台半ばで購入することができます。安くなりましたよね。

解像度とは?

画面に表示できる情報の量を表す指標に「解像度」というものがあります。これは、1つの画面上に何個のドット(点)を表示できるかを表したものです。解像度には規格があり、代表的なものは表1の通りです。

2~3年より前に購入したパソコンの場合、XGA(1024×768)表示であることが多いと思います。

解像度が上がると、画面上に一度にたくさん情報を表示することができるようになります。

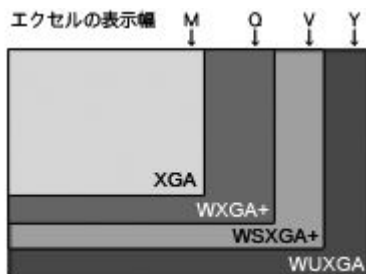
例えば、インターネットで情報を検索しながら書類を作成する場合、ワードとブラウザを画面の半分ずつに並べて表示しても窮屈にならなったり、エクセルなどでは画面をスクロールさせなくてもかなり広い作業領域を確保することができます。

無駄なマウス操作が減ることで、作業効率が良くなること間違いなしです。

<表1> 解像度

解像度規格	ドット数
XGA	1024×768
SXGA	1280×1024
UXGA	1600×1200
WXGA+	1400×900
WSXGA+	1680×1050
WUXGA	1920×1200

※「+」が付く規格は製品によりドット数が若干異なります。



<図1> 解像度とエクセルの表示幅

マルチモニタを使う

1台のパソコンに複数のモニタを接続することをマルチモニタといいます。

デスクトップパソコンの場合、ビデオカードを増設することで、マルチモニタ化することができます。また、ノートパソコンの場合、外部モニタへの出力機能が備わっている機種も多くあり、その場合、特にビデオカード等を増設せずともマルチモニタを利用することができます。



<図2> マルチモニタのイメージ

マルチモニタ化のメリットは、モニタを増やした分だけ作業領域が広がっていくことです。Windows XPでは最大10台まで増やすことができます。でも、10台ものモニタを繋いでも何に使うか悩みますね。

USBサブモニタ

最近、USBで接続するだけのお手軽なサブモニタが登場しました。7~8インチの小さなモニタですが、バスパワーで駆動するのでACアダプタを必要とせず、縦、横の好きな向きに設置することができるなど、持ち運びにも非常に便利な製品です。

USBサブモニタは、7インチでWVGA(800×480)表示の製品が多いようですが、8インチでSVGA(800×600)表示できる製品も登場するなど、同カテゴリは今後、様々な用途に適した多様な製品が出てきそうです。



<写真1> USBサブモニタ
BUFFALO FTD-W71USB

モニタは、我々がパソコンを使う上で一番、重要なインターフェイスです。使い方が適切でないと、目の健康を害するだけではなく、全身に影響を及ぼしかねません。最近のモニタは輝度がとても明るくなっていて、そのまま使うとまぶしいくらいです。明るさ(輝度)を調整したり、適度な休憩で目を休めるなどして、便利に安全に使用しましょう。

編集後記 パソコンのモニタは長年スクエア型(縦横比3:4)が主流だったため、ワイド型に取り替えると違和感を感じる人が多いようです。私もワイド型モニタを購入した当初は横長の画面がすごく無駄に感じた覚えがあります。慣れてくるととても目になじむし、情報の表示量も増えるので、今ではとても便利に使用しています。自宅のテレビはまだスクエア型なので、早く地デジ対応の薄型ワイドテレビに買い換えたいと思う今日このごろです。(本田)